

発展

- 6月 町内二農協合併、歌津町農業協同組合誕生
- 9月 歌津町民俗資料館オープン
- 9月 宮方地区水田基盤整備事業実施
- 昭和58年 2月 農業共済組合が合併、気仙沼本吉地方農業共済組合誕生
- 昭和59年 6月 町長に佐藤榮太郎氏当選
- 昭和60年 10月 町体育協会文部大臣賞受賞
- 10月 国勢調査 人口6,152人 世帯数1,346世帯
- 昭和61年 3月 町史発刊
- 8月 8/5豪雨 雨量342.6mm (被害額1億9千万円)
- 昭和62年 4月 弘川ダム建設予備調査開始
- 5月 満海上人400年祭
- 5月 歌津町議会議員定数を16人に改正
- 昭和63年 6月 町長に佐藤榮太郎氏当選
- 6月 町営総合グラウンド造成工事
- 6月 田束山生活環境保全林整備事業開始
- 6月 歌津・志津川両町森林組合が合併、志津川歌津森林組合誕生
- 6月 小屋の沢林道拡幅改良工事開始
- 昭和64年 1月 天皇陛下崩御、年号が「平成」になる
- 平成元年 3月 JR気仙沼線快速「南三陸号」歌津駅に停車開始
- 4月 開村100年、町制施行30周年を迎える
- 9月 郡内初「中学生たつがね駅伝競走大会」本町のコースで開催
- 平成2年 2月 老人福祉センター、デイ・サービスセンター落成
- 5月 平成の森林間広場完成
- 7月 第1回くろしおゲートボール大会開催
- 8月 初の外国人英語指導助手「カウカス・J・リー先生」着任
- 10月 国勢調査 人口6,056人 世帯数1,368世帯
- 11月 水産振興センター・魚竜館落成
- 12月 ふるさと創生大学第1期生開校
- 平成3年 4月 名足小学校「全日本学校緑化コンクール」特選入賞
- 8月 平成の森野球場完成、イースタンリーグ巨人対大洋戦
- 平成4年 4月 歌津中学校特別教室完成、パソコン20台設置
- 4月 精神障害者小規模作業所開設
- 5月 県内初、ナイター野球リーグ戦開幕
- 6月 町長に牧野駿氏初当選
- 6月 鹿島アントラーズ平成の森で合宿
- 8月 第1回歌津恋来い浜まつり開催
- 平成5年 2月 町社協、入浴車による訪問入浴サービス開始
- 3月 町特産品いちじくワイン「楽園のしずく」誕生
- 仲人等奨励金贈呈制度開始



町特産品いちじくワイン「楽園のしずく」誕生(平成5年)



歌津中学校特別教室完成、パソコン20台設置(平成4年)



平成の森野球場完成 イースタンリーグ巨人×大洋戦(平成3年)



水産振興センター・魚竜館落成(平成2年)



老人福祉センター、デイ・サービスセンター落成(平成2年)



満海上人400年祭(昭和62年)



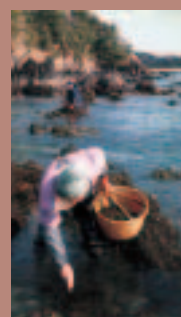
名足小昔のあそび時間(昭和61年)



8月5日豪雨 被害額1億9千万円(昭和61年)



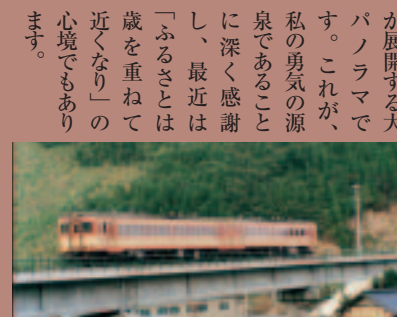
第20回町民運動会(昭和60年)



私の生まれた頃は歌津村でした。1年生の頃は太平洋戦争が始まった年で、5年生の8月15日終戦となり先生と共に悔しさのあまり涙を流しました。20才位までの歌津を振り返りますと、1番目は海岸等がいつも清らかであった事、2番目には毛ガニ、真タコ、海藻類等天然の魚介類が沢山取れ、そのお陰で佐沼方面に海の幸を持参して米と交換して帰り、家族を養ったことが思い出されます。海の恵を受けながら生活している、衣食住も変わってきました。昭和30年代になり北洋でサケ鱒の漁に出る様になり、3ヶ月の操業で各船大漁で寄港するところができました。それからサンマ漁や鮪漁に出漁して所得を得、各自が豊かになった様でしたが、良い生活も何年も続かず北洋母船式も年ごとに減船が続く、中部船のみとなり、働き盛りの若者が働く会社もなく、長男にはお嫁さんはなく、親様も毎日のように頭痛になるばかりとの話も耳にしました。以前のように地域の海で生物が多く採取出来る様、一人ひとりが自覚して生命を育てられる大切な海を守り、沿岸漁業で生活を営んで行く様になれば若者も漁に専念できるし、お嫁さんも昔の様に簡単に迎えられる様になるかも。歌津村から町になる頃を現在でも私としては頭から離れない良い思い出とし、そして南三陸町になっても自然を愛し山海を大切に生活を営んで生きたい。



(菰の浜) 阿部 文夫さん



私のなかの故郷は、泊浜から眺めた万物の母である大海原と、歌津の里を抱擁する田束山の雄姿とが展開する大パノラマです。これが、私の勇気の源泉であることに深く感謝し、最近「ふるさと」は歳を重ねて「近くなり」の心境でもあります。

鉄道のない町
45年も前の話です。大蔵本省(現財務本省)に赴任したとき、先輩の「歌津ってどこ、国鉄の最寄の駅は」の問い。「石巻と石越です」の答え、「何キロある?」そんな遠いところは最寄の駅とは言わないよ、鉄道のない田舎の出か」と。この質問、悔しさをバネに仕事と勉強に取り組めるかどうか、根性のテストだったらしい。そのとき肝に銘じたものが2つ。1つは鉄道はないが自分には素晴らしい故郷があること、2つは東京に出たんだ、若いうちに勉強し幅広い知識を身に付けることが何よりの武器になることだ。昭和52年12月11日、めでたく気仙沼線は全線開通しました。私のなかでは、歌津町が全国に認められた最初と記憶しています。私のなかの故郷は、泊浜から眺めた万物の母である大海原と、歌津の里を抱擁する田束山の雄姿とが展開する大パノラマです。これが、私の勇気の源泉であることに深く感謝し、最近「ふるさと」は歳を重ねて「近くなり」の心境でもあります。



茨城県つくば市在住(泊浜出身) 三浦 富彦さん